

「大阪観光局（DMO）の推進に関するトップ会議」 議事概要

日 時：令和5年1月16日（月） 13：00～13：50

場 所：大阪商工会議所 7階 国際会議ホール

出席者：吉村大阪府知事、松井大阪市長、永藤堺市長、鳥井大阪商工会議所会頭、
松本（公社）関西経済連合会会長（※）、生駒（一社）関西経済同友会代表幹事（※）
福島（公財）大阪観光局会長、溝畑（公財）大阪観光局理事長
※はオンライン

議題： 国際観光文化都市・大阪を目指して

【挨拶】

■福島 大阪観光局会長

- この2年半、コロナに大変苦しめられてきたが、現在は明るい兆しが見えてきていると思う。昨年秋以降、全国旅行支援による国内観光の回復、水際対策の緩和により多くの外国人が見受けられ、本年以降の本格的なインバウンドの復活が期待できる。これを機に外国人旅行者一人当たりの消費額単価を上げる高付加価値ツーリズム、従来の大阪の魅力や強みに加え、新しい価値を加えたツーリズムの創出に取り組んでいきたいと考えている。
- 昨年夏には、世界で最も住みやすい都市ランキングで大阪がアジアで唯一トップ10へのランク入りを果たしたという嬉しいニュースもある。今後も、大阪のさらなる魅力づくりにオール大阪で取り組んでいきたい。
- 本年10月に、G7 貿易大臣会合が堺市と大阪市で開催され、秋にはツーリズム EXPO ジャパン 2023 も4年ぶりに大阪で開催される。国内外から約10万人もの集客が見込まれており、開催時期が万博の500日前と重なっているため万博につなげたいと考えている。万博開催前後には国際的・世界的なプロジェクトやイベントが目白押しで、大阪の成長と発展に貢献できればと考えている。
- 万博は、大阪の魅力を全世界に発信する絶好の機会。万博のさらなる機運醸成に力を入れていきたいと考えており、その取組の一つとして、MICE 関連事業者10社による「Team OSAKA MICE」を立ち上げ、2025年に大阪でMICEをしないかという誘致活動に取り組んでいる。
- 大阪観光局としては、大阪府、大阪市及び堺市や経済団体、民間事業者と力を合わせてオール大阪で大阪観光の「復活から飛躍の2023年」にすべく、明るく元気に頑張ってもらいたいと考えているので、ご支援等よろしくお願いする。

【資料説明】

■溝畑 大阪観光局理事長
(資料に沿って説明)

【出席者からの主な意見】

■鳥井 大阪商工会議所会頭

- 大阪観光局には、幅広い事業を精力的に進めていただき感謝申し上げます。観光振興を通じ、地域経済を潤すだけでなく、大阪を訪れた方には、大阪の「街や景色、ヒト」の魅力に直接触れてもらい大阪のファンになってもらいたい。そのためにも、魅力ある都市づくりを目指して、大阪観光局には先頭に立って大阪の観光振興を牽引してもらいたい。
- 大阪商工会議所では、アジア・欧米等の富裕層をはじめとした、多様な人々の戦略的誘致と滞在交流型観光の推進に取り組んでいる。また、食に関しても、大阪観光局とともに食創造都市大阪推進機構において様々な事業を展開しているところである。
- 大阪商工会議所としては、今後も大阪のブランディング向上への取り組みや仕組みづくりに全力を尽くしたいと考えているので、引き続きご協力をよろしくお願いしたい。

■松本 関西経済連合会会長

- 関西観光本部では、関西広域連合、2府8県の自治体、関経連が協力して万博プラス関西観光推進事業を2023年度より始めたいと考えている。実施事業はオーバーラップしているので、積極的な協力をよろしくお願いしたい。
- 文化庁においては新たな文化行政を展開することを打ち出されている。関経連が実施したシンポジウムでは、万博に向けて文化芸術、ナイトカルチャーの振興に取り組みたいと話があった。この方向性は観光局の取組みと合致するので、文化庁との連携を進めてもらいたい。

■生駒 関西経済同友会代表幹事

- 同友会では、瀬戸内海という世界でも良質な海遊観光エリアを活用した周遊観光を検討している。国際観光都市大阪の競争力の強化につながるだけでなく、アフターコロナを見据えて特定地域へのインバウンドの集中・混雑を避けることができ、長期滞在型、高付加価値型の高級感ある旅行を提供することが可能であると考えている。
- 加えて万博に向け、教育旅行の誘致が有効であると考えている。将来を担う若者には参加してもらいたい。タイミングを逃すことなく推進できればと思っているので、引き続き皆さまの支援をよろしくお願いしたい。

■松井 大阪市長

- 大阪観光局が発足して今年で10年、インバウンドの消費額が約10倍となるなど、大阪の魅力を国内外へ発信してきた成果が表れていると感じているが、これからはリピーターにも来てもらうために高付加価値の体験型観光が必要になると考えている。

- 大阪は、健康・ウェルネスの分野で高いレベルの技術とサービスを提供できるエリアであり、2024年には府市一体で取り組んでいる大阪の未来医療拠点が中之島にオープンする。また、大阪国際がんセンターへ世界中から高いレベルのがん治療を求めて来られているという実績もある。
- こういったことを万博を通じて世界にアピールし、日本トップクラスの医療技術とサービスの提供を通じた世界中の富裕層による消費拡大など、健康・ウェルネス分野を観光の一つの戦略として、これからの10年、バージョンアップさせながら観光が大阪の産業の確実な柱になるよう取り組んでいただきたい。
- 大阪市としても、ビジネス交流や経済成長につながるよう、観光に来られる方がより便利で過ごしやすいまちづくりに引き続き注力していく。

■永藤 堺市長

- 今年はインバウンドをはじめ観光需要の回復などの取組みが重要となってくる。堺市としても提示いただいた重点エリアの取組（食、世界遺産、自転車など）は確実に取り組んでいきたい。
- 日本人の精神性の発信も海外の方に有効と考えている。堺の魅力の1つである茶の湯の精神である「わびさび」などは現代の日本人の意識に根付いている。日本人の礼儀正さの由来が大阪に縁があること、また、フロンティア精神などは大阪発祥であること等、日本人の精神性を大阪で感じてもらえるような取組みを進めて欲しい。
- これまでは大阪の魅力の発信は、大阪市が中心だったと思うが、次のステージとして大阪市以外に広げていくことが重要だと考える。歴史や文化など多様な大阪府ならではの体験をしてもらうことで、大阪の魅力がさらに増すと考える。
- これを効果的に進めるためには、DMOとして府内の団体と連携してもらいたい。万博があるので、効果的な周知や情報発信を行うことによる誘致効果の向上にも力を入れていきたい。よろしくお願いします。

■吉村 大阪府知事

- 観光局においては、いらっしやいキャンペーン事務局として実施していただき感謝。
- 今月10日から再開、閑散期と言われる今月末からは大阪独自のクーポンの上乗せを実施するので引き続きお願い。
- 現在、国内の旅行需要は高い。今後はインバウンドが本格的に回復すると考える。大阪には選択肢、元々魅力的なところでも、非常に多くの海外の皆様に対応しているエリアがある。先日、ロンドンと関空の直行便の再開をお願いしにロンドンに行った際にも大臣からもぜひ協力したいといわれ、大阪関西に対する期待感が高いと感じており、これは世界的な傾向で今後、さらに増えてくると思う。
- 2025年の万博は大きなチャンス。大阪や関西の魅力を発信していく。万博のインパクトを活かした誘客の促進に取り組んでもらいたい。府でも海外向けのプロモーション動画を作成中。この辺りも観光局と連携しながら相乗効果を発揮していきたいと思っているの

で引き続きよろしくお願い。

- 10月にはG7貿易大臣会合が開催される。堺の魅力、大阪南部エリアの魅力、素晴らしい魅力を世界に発信する絶好のチャンス、観光局においては観光振興を含めて会合のアピールに寄与してもらいたい。
- ツーリズムについては、単純な旅行からテーマ型の旅行スタイルに変わってきている。さまざまなテーマ型の旅行スタイルへの関心が高まってきているし、高付加価値も重要。コンテンツの磨き上げを含めてここに力を入れてもらいたい。
- 兵庫との連携、観光は連携しやすいと思うので力を入れていこうと、来年度には両知事によるトッププロモーションもする予定。観光局においても広域での周遊ルート作り等もお願いしたい。

以上